



# 学校だより

9月号

【か】よくかんがえ 【な】なかよく 【が】がんばる 【わ】わたしたちかなっ子

神奈川小公式WEBページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kanagawa/>

令和8年8月31日

横浜市立神奈川小学校

## 「ふるさとがもつ空気感」

校長 足立 渉

北門の百日紅(サルスベリ)が、子どもたちの久しぶりの登校を喜ぶかのように美しく咲いています。今年も厳しい暑さが続く夏でしたが、強い日差しを受けながらも可憐なピンク色の花を咲かせる姿に、心を癒やされていました。そんな百日紅を詠んだ有名な俳句に、次の二句があります。

正岡子規「世の中や ひとり花咲く 百日紅」

高浜虚子「炎天の 地上花あり 百日紅」



正岡子規や高浜虚子がこれらの句を詠んだ明治時代は、今ほどの猛暑ではなかったようですが、冷房のない夏の暑さは、やはり「炎天」という言葉で表したくなるほど厳しいものだったのでしょう。どちらの句も、暑さの中で小さな花を咲かせ続ける百日紅の健気な姿を表しているように感じます。

さて、この夏休みは二週間ほど実家のある島根県で過ごしました。九十歳になる父が一人で暮らしているため、少しでも手伝いができればと思い帰省しました。私は大学進学を機に横浜へ出て以来、こちらで暮らした年月の方が長くなりましたが、実家に戻ると不思議と心が落ち着きます。その理由は、生まれてから高校卒業までの多感な時期をその土地で過ごしたからではないでしょうか。ふるさとがもつ空気感は、たとえ景色が変わっていても、自分自身の土台としてしっかりと心に残っているように感じます。

今年も地域の夏祭りや山車を曳く行事に参加させていただきました。そこで出会った子どもたちの姿を見ながら、「かなっ子」にとっても、このような地域行事こそが故郷の空気感を育む大切な舞台なのだろうと思いました。練習を重ねた太鼓を誇らしげに叩く姿、地域の方々と一緒に盆踊りを楽しむ姿、夜店で笑顔いっぱい買い物をする姿。その一つ一つが、このまちで過ごした大切な思い出として心に刻まれていくことでしょう。また、浦島町の山車曳きや亀住町の櫓での太鼓演奏では、浦中の生徒たちが手伝ってくれていました。普段の学校生活では接点の少ない小学生と中学生が、地域の行事を通して自然に関わり合う姿は、学校だけでは実現できない、とても貴重な小中連携の姿だと感じました。

このような地域の温かい空気に包まれながら、「かなっ子」は健やかに成長し、将来このまちを離れることがあっても、自分のふるさととして懐かしく思い出してくれることでしょう。祭りの準備や運営に携わってくださった町内会長様をはじめ、地域の皆様には心より感謝申し上げます。炎天下の中でのご尽力が、子どもたちの豊かな体験を支えてくださっています。百日紅の花が暑さに負けず咲き続けるように、皆様もまた、この猛暑の中で地域と子どもたちのために力を尽くしてくださいました。改めて深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

以前の学校だよりも書きましたが、これからの学校は、保護者をはじめとする地域の皆様とのつながりなくして成り立ちません。子どもたちの健やかな成長という目標を共有し、地域全体で子どもを育むことを大切にする「チームかな小」として、今後ともご協力をお願いいたします。